

授業概要

私たちが日常使っている言葉を科学的な方法を用いて研究する学問分野を言語学といい、その中で、英語を研究対象としたものを英語学という。言語には「音」「意味」「構造」といった3つの側面があり、言語学にも「音に関する分野（音韻論・音声学）」「意味に関する分野（意味論）」、「構造に関する分野（形態論・統語論）」など様々な下位分野がある。この授業では、人間言語についての理解を深めることを目標とし、英語と日本語の分析を交えながら、言語学の様々な分野の概要を講義する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、英語学とは
第2回	英語の歴史について（英語史）1：英語の語彙と音声の変化
第3回	英語の歴史について（英語史）2：英語の語順の変化
第4回	音について（音声学、音韻論）1：IPA
第5回	音について（音声学、音韻論）2：英語の音声
第6回	音について（音声学、音韻論）3：日本語の音声
第7回	単語の構造について（形態論）1：形態論基礎
第8回	単語の構造について（形態論）2：英語の派生語の構造 1
第9回	単語の構造について（形態論）3：英語の派生語の構造 2
第10回	単語の構造について（形態論）4：日本語の複合語と連濁規則
第11回	語句・文の構造について（統語論）1：統語範疇
第12回	語句・文の構造について（統語論）2：構成素
第13回	語句・文の構造について（統語論）3：句構造規則 1
第14回	語句・文の構造について（統語論）4：句構造規則 2
第15回	語句・文の構造について（統語論）5：あいまいな文の構造、まとめ
第16回	筆記試験

※ 授業の内容、進度は状況に応じて変更されることがある。

到達目標

- 英語と日本語の分析を通して人間言語についての理解を深めることができる。
- 音声学、音韻論、形態論、統語論の基礎知識を身につけ、基本的な単語や文の音や構造に関する分析ができる。
- 英語への興味、関心を深めることができる。

履修上の注意

英語学は、暗記が重要な英語の語学学習とは本質的に異なり、論理的・科学的な思考方法が必要である。授業中は、言語分析の問題を解く時間も多くあるので、ただ講義を聞いてノートをとるだけではなく、自分の頭でよく考えて、わからないことは積極的に質問するようにすること。

予習復習

- 予習：次回の授業範囲の資料やハンドアウトに目を通し、指示された問題を解いておく。
- 復習：授業でわからなかったところは次回の授業までにクリアしておくか、疑問点をよく整理しておく。また、授業で扱った問題は家でもう一度解いて復習しておく。

評価方法

授業内での発表、提出物、毎回授業の最後に行う講義内容に関するクイズの結果を平常点として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。

平常点 40% 定期試験 60%

テキスト

教科書は使わない。作成したハンドアウトや資料を配布して授業を行う。